

企画展  
祈りと救いの美  
—国宝 普賢菩薩騎象像との出会い

2026年7月28日(火)～9月27日(日)  
公益財団法人 大倉文化財団 大倉集古館

【展示作品】48点 (展示替あり)

- \*前期：7月28日(火)～8月30日(日)
- \*後期：9月1日(火)～9月27日(日)
- \*展示期間の表記がないものは通期展示
- \*①～⑬はすべて大倉集古館蔵



① <sup>ふげんぼさつきぞうぞう</sup>普賢菩薩騎象像 平安時代12世紀 国宝

【概要】

さまざまな近代事業を展開した大実業家、大倉喜八郎(1837～1928)は、廃仏毀釈による寺院の荒廃、仏教美術品の散逸や海外流出を憂い、それらを含む日本・東洋の古美術品を収集しその保護に努めました。そして1917年に私立美術館、大倉集古館を設立し作品を公開することでその価値を世間に広く知らしめました。本展では、当館の収蔵品の柱の一つである仏教美術の作品を、「経典と仏教伝来」「釈迦如来とその弟子」「極楽浄土と地獄」「法華経信仰と普賢菩薩」「密教」「神仏習合」の6章に構成し、仏教美術の流れを紹介すると同時に、東京都内で銅像釈迦如来倚像(深大寺蔵)と合わせて2点しかない国宝の仏像の一つ、「普賢菩薩騎象像」も展示します。本像の平安時代後期を代表する繊細優美な姿や、華麗な彩色と緻密な截金をご堪能いただければ幸いです。

【構成】

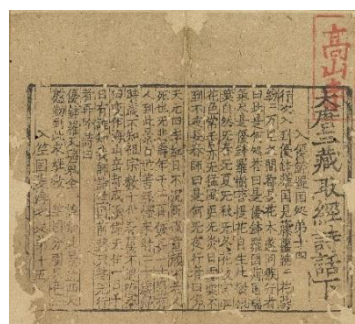
1章 経典と仏教伝来

仏教は紀元前5世紀から4世紀のインドで釈迦(ゴータマ・シッダールダ)によって始められました。釈迦没後、その教えは経典という形で集積され、地域や時代を超えて広まってゆきます。日本へは、538年(あるいは552年)に百済の聖明王が伝えたのが最初といわれています。本章では日本で仏教を広め国家的に重視した聖徳太子(厩戸王)の肖像や、宝亀元年(770)と制作年代が判る世界最古の印刷物「百万塔陀羅尼」などの展示を通じて日本の古代仏教の様相を展観します。



③ <sup>しょうとくたいしししょうまんぎょうこうさんず</sup>聖徳太子勝鬘経講讃図 鎌倉時代14世紀 重要美術品

<sup>だいたうさんぞうしゆきやうしわ</sup>②大唐三蔵取経詩話 3冊  
中国・南宋時代13世紀  
重要文化財【ページ替え有】



## 2章 釈迦如来とその弟子

釈迦の生涯は修行中の期間を「菩薩」、悟ったのちの時代を「仏陀」(仏、如来)と分けられます。やがて信者間で釈迦以外にも菩薩や仏が存在した、あるいは未来に現れるという信仰が芽生え、阿弥陀如来や観音菩薩など多くの如来や菩薩が考案されました。また、釈迦の没後に、長寿を保ちながらこの世にとどまり、釈迦の仏法を守り、人々を救済するように遺言を託された16人の高僧(修行を完成した聖者・阿羅漢)、いわゆる十六羅漢といった弟子たちも信仰の対象となりました。



④ 仏涅槃図 鎌倉時代 14世紀 重要美術品



第12尊者

⑤ 十六羅漢像 16幅 鎌倉時代 14世紀 重要美術品  
(第1~8尊者【前期】・第9~16尊者【後期】)

## 3章 極楽浄土と地獄

「浄土」は仏が住む世界を言います。浄土には毘盧遮那仏や薬師如来が主宰するものなど様々ありますが、平安時代以降の日本人にとって浄土といえば阿弥陀如来の西方極楽浄土でした。浄土信仰を特徴づける作品としては、阿弥陀如来が極楽浄土へ迎えるために今わの際の者のもとに飛来する場面を描く「来迎図」があります。一方「地獄」は、この世での悪行によって死後に送られ、厳しい責め苦を受けるとされる靈魂の世界と位置付けられ、地獄の恐怖を自覚することで、対照的な救いの場である浄土への希求を強めるという関係にあります。

⑥ 山越阿弥陀図(部分) 冷泉為恭  
文久3年(1863) 重要美術品



⑥

⑦ 探幽縮図 地獄十王図巻(部分) 閻魔王  
1巻 狩野探幽 江戸時代 17世紀  
重要美術品【後期】



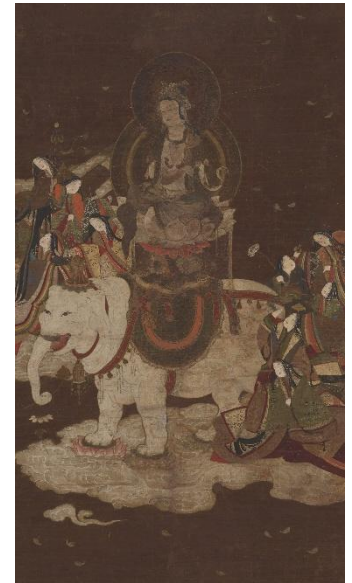
⑦

## 4章 法華経信仰と普賢菩薩

普賢菩薩は文殊菩薩とともに、釈迦如来の脇侍として三尊像としてあらわされることが多いですが、平安時代中後期にかけて『法華経』の隆盛とともに、単独像として信仰されるようになります。『法華経』において女性の成仏を説く場面に登場するため、この時期の貴族女性たちに篤く信仰されるようになり、優れた仏像や仏画が制作されました。本章では、この時期を代表する仏像の名品、国宝「普賢菩薩騎象像」(画像①)を中心に、装飾経の白眉ともいわれる「平家納経」(田中親美筆 模本)など、法華経信仰に関わる作品をご覧ください。



⑧平家納経 観普賢経(模本)(部分) 33巻の内  
田中親美(1875-1975) 大正～昭和初期 20世紀



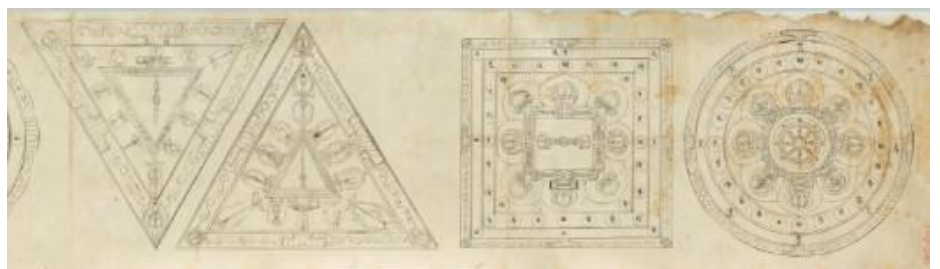
⑨普賢十羅刹女  
鎌倉時代 14世紀

## 5章 密教

密教は4世紀頃からインドの民間で行われていたまじないの作法を、仏教に取り入れて生まれました。密教の仏を特徴づけるのが明王と称される忿怒の像で、複数の顔と多数の腕を持つ異形像も多いです。7世紀にはいとインドの密教は体系的に整理され、「大日経」と「金剛頂経」が成立し、それらに説かれる密教の最高尊、大日如来を頂点とした仏の世界を視覚化した曼荼羅も制作されました。密教では曼荼羅の前に方形の護摩壇を置き、壇上に法具類を配して修法を行います。



⑩一字金輪像 鎌倉時代 13世紀  
重要文化財【後期】



⑪護摩壇図 鎌倉時代 14世紀 【巻替え有】

## 6章 しんぶつしゅうごう 神仏習合

飛鳥時代に日本に伝わった仏教は、日本の在来信仰である神道と結びつきました。平安時代後期になると、日本の神々は仏教の仏菩薩が衆生しゅじょうを救済するために姿を変えて現れたとする本地垂迹ほんちすいじやく説が生まれました。この説によると、仏菩薩は本来の姿(本地)、神は仮の姿(垂迹)とみなされ、春日大社をはじめとする主だった神社の祭神には、それぞれ本地仏が当てられるようになりました。本章では石清水八幡宮(本地仏は阿弥陀如来)の景観を描いた宮曼荼羅みやまんだらである「石清水八幡曼荼羅」(重要文化財)を修理後、初公開いたします。



⑫ かすがしかまんだらず 春日鹿曼荼羅図 室町時代 15世紀【前期】



⑬ いわしみずはちまんだらず 石清水八幡曼荼羅図 鎌倉時代 13世紀  
重要文化財【後期】

【展覧会名】 企画展「祈りと救いの美—国宝 普賢菩薩騎象像との出会い」

【会期】 2026年7月28日(火)～9月27日(日)

\*前期：7月28日(火)～8月30日(日)

\*後期：9月1日(火)～9月27日(日)

【開館時間】 10：00～17：00（入館は16：30まで）

【休館日】 毎週月曜日（休日の場合は翌平日）

【入館料】 一般1,000円、大学生・高校生800円、中学生以下無料

※同会期中のリピーターは500円引き（一般、大学生・高校生料金お支払いの方のみ）

※20名様以上の団体は500円引き

※障がい者手帳、被爆者手帳をご提示の方とその同伴者1名は無料

※お着物（和装）でご来館の方は300円引き

※ミュージアムパスポート5,500円

※オークラ東京とのセット鑑賞券（ランチセット6,000円、茶菓セット3,100円）

[割引併用不可]

【主催】 公益財団法人 大倉文化財団 大倉集古館

【協力】 大成建設株式会社、特種東海製紙株式会社、株式会社ニッピ、株式会社ホテルオークラ

【会場】 公益財団法人 大倉文化財団 大倉集古館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-3（オークラ東京前）

TEL:03-5575-5711

<https://www.shukokan.org/>

【アクセス】

- ・東京メトロ南北線 「六本木一丁目駅」中央改札口（泉ガーデン方面）より5分
- ・東京メトロ日比谷線 「神谷町駅」4b出口より7分
- ・東京メトロ銀座線・南北線 「溜池山王駅」13番出口より10分
- ・東京メトロ日比谷線 「虎ノ門ヒルズ駅」A2a出口より8分

【展覧会に関するお問い合わせ】

（広報担当） 高野明子（学芸補助）（[takano.a@shukokan.org](mailto:takano.a@shukokan.org)）

四宮美帆子（学芸課長）（[shinomi@shukokan.org](mailto:shinomi@shukokan.org)）

（展覧会担当） 平塚泰三（学芸部長）（[hiratsuka.t@shukokan.org](mailto:hiratsuka.t@shukokan.org)）

※3人宛にご連絡下さい、（@を@に変えてください）

電話：03-5575-5711、FAX：03-5575-5712

■次回展覧会

企画展 美しい瞬間—美人画を中心に

2026年10月3日(火)～12月20日(日)

## 企画展 祈りと救いの美—国宝 普賢菩薩騎象像との出会い

### 報道内覧会のご案内

2026年7月27日（月）

（受付）13：00～ （作品解説等）13：15～14：00 （終了）15：00

担当学芸員より展覧会のご説明や作品解説を行い、ご質問にお答えいたします。

展示室内をご撮影いただけます。

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAX かメールにてご返信ください

**FAX 03-5575-5712**

**E-mail: takano.a@shukokan.org**（●を@に変えてください）

**大倉集古館 高野明子 宛**

#### ■ご担当者様情報

貴社名	
ご担当職・ご氏名	
電話番号・FAX 番号	
メールアドレス	

#### ■参加者（上記以外）

ご所属・役職名	ご氏名

【会場】大倉集古館 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-10-3（オークラ東京正面玄関前）

- ・東京メトロ南北線 六本木一丁目駅改札口（泉ガーデン方面）より5分
- ・東京メトロ日比谷線 神谷町駅 4b 出口より7分
- ・東京メトロ銀座線・南北線 溜池山王駅 13 番出口より10分
- ・東京メトロ日比谷線 虎ノ門ヒルズ駅 A2a 出口より8分

※やむをえない日時や内容の変更・中止をする場合がございます。 ご来館前に当館 HP をご確認ください。

## 企画展 祈りと救いの美—国宝 普賢菩薩騎象像との出会い 広報用画像申請書

宛先：大倉集古館 学芸部 高野明子 宛 FAX：03-5575-5712  
E-mail：takano.a■shukokan.org (■を@に変えてください)

### ■図版使用に際しての注意

- ・本展覧会の紹介を目的とする内容にのみご使用ください。
- ・ご申請いただいた記事・番組に限り、本展の広報用画像の使用が可能です。
- ・使用後のデータは破棄してください。・ウェブ上で使用する場合は、コピーガード等を施してください。
- ・画像への文字のせ、加工などを希望する場合はご相談ください。
- ・画像使用の際は必ず作品キャプションを載せてください。
- ・画像使用の掲載誌や放送 DVD は 1 部ご惠贈ください。

希望	No	作品
	1	普賢菩薩騎象像 平安時代 12 世紀 国宝
	2	大唐三蔵取経詩話 3 冊 中国・南宋時代 13 世紀 重要文化財【頁替え有】
	3	聖徳太子勝鬘経講讃図 鎌倉時代 14 世紀 重要美術品
	4	仏涅槃図 鎌倉時代 14 世紀 重要美術品
	5	十六羅漢像 16 幅の内 第 12 尊者 鎌倉時代 14 世紀 重要美術品【後期展示】
	6	山越阿弥陀図(部分) 冷泉為恭 文久 3 年(1863) 重要美術品
	7	探幽縮図 地獄十王図巻(部分、閻魔王) 1 巻 狩野探幽 江戸時代 17 世紀 重要美術品【後期展示】
	8	平家納経 観普賢経(模本)(部分) 33 巻の内 田中親美 大正～昭和初期 20 世紀
	9	普賢十羅刹女 鎌倉時代 14 世紀
	10	一字金輪像 鎌倉時代 13 世紀 重要文化財【後期展示】
	11	護摩壇図 鎌倉時代 14 世紀 【巻替え有】
	12	春日鹿曼荼羅図 室町時代 15 世紀【前期展示】
	13	石清水八幡曼荼羅図 鎌倉時代 13 世紀 重要文化財【後期展示】

※所蔵者名は全作品、「大倉集古館蔵」としてください。

ご住所		
貴社名		
ご担当者名		
TEL/FAX	TEL:	FAX:
E-mail		
媒体名		
発行放送予定日		